

I 改訂の概要

1 作業体制

改訂作業に当たっては、野生生物について優れた学識経験を有する委員から構成された「岡山県野生動植物調査検討会」において、岡山県野生生物目録(2009)の作成以降、毎年度データの収集及び更新を行った。

また、検討会における体制は、「運営委員会」において、作業方針や事業スケジュールなど検討会の事業に関する重要事項を協議・決定し、「動物部会」、「昆虫部会」及び「植物部会」において、それぞれの対象分類群での選定作業を実施した。

◇「岡山県野生動植物調査検討会」(40名)

- 会長 ○ 千葉 喬三 (岡山大学 名誉教授)
特別顧問 ○ 青野 孝昭 (倉敷昆虫同好会) [令和元年度退任]

〔動物部会〕(12名)

- 阿部 司 (株式会社ラーゴ 生物多様性研究室長)
◎ ○ 江田 伸司 (倉敷市立自然史博物館 学芸員)
小林 秀司 (岡山理科大学 教授)
阪田 睦子 (岡山県自然保護センター)
坂本 明弘 (倉敷市立自然史博物館友の会)
洲脇 清 (倉敷の自然をまもる会) [令和2年度退任]
多田 英行 (日本野鳥の会岡山県支部)
中田 和義 (岡山大学 教授)
中本 敦 (岡山理科大学理学部動物学科 准教授) [令和2年度就任]
○ 野嶋 宏一 (株式会社ウエスコ)
福田 宏 (岡山大学 准教授)
○ 丸山 健司 (日本野鳥の会 岡山県支部長)
山田 勝 (岡山県自然保護センター友の会)

〔昆虫部会〕(12名)

- 伊藤 國彦 (岡山県立大学 名誉教授) [令和4年度退任]
岡野 貴司 (社会医療法人創和会 倉敷昆虫館) [令和5年度就任]
○ 奥島 雄一 (倉敷市立自然史博物館 学芸員)
加藤 学 (山田養蜂場 山田みつばち農園)
末宗 安之 (倉敷昆虫同好会)
高橋 元 (倉敷鷺羽高等学校 教諭)
中村 具見 (日本蝶類科学学会 理事)
守安 敦 (倉敷昆虫同好会)
水元 誠 (東洋産業株式会社) [令和4年度就任]
◎ ○ 山地 治 (岡山昆虫談話会)
山本 卓 (倉敷昆虫同好会) [令和7年度就任]
吉澤 聡史 (東洋産業株式会社) [令和3年度退任]
○ 吉鷹 一郎 (岡山野生生物調査会 会長)
渡辺 昭彦 (岡山昆虫談話会)

渡辺和夫 (倉敷昆虫同好会) [令和6年度退任]

[植物部会] (12名)

- 榎本 敬 (倉敷市立自然史博物館友の会 評議員)
- 太田 謙 (岡山理科大学 研究・社会連携部)
- 岡田 智子 (公益財団法人岡山市公園協会) [令和4年度就任]
- 片岡 博行 (社会医療法人創和会 重井薬用植物園 園長)
- 片山 久 (倉敷市立自然史博物館友の会) [令和3年度退任]
- ◎ ○ 狩山 俊悟 (倉敷市立自然史博物館 学芸員)
- 川合 啓二 (岡山コケの会) [令和2年度就任]
- 熊瀬 徳輝 (公益財団法人岡山市公園協会) [令和3年度就任]
- 地職 恵 (岡山県自然保護センター元職員)
- 西村 直樹 (岡山コケの会) [令和元年度退任]
- 西本 孝 (e-Tam 自然と教育研究所 代表)
- 波田 善夫 (岡山理科大学 名誉教授) [令和3年度退任]
- 星野 卓二 (岡山理科大学 名誉教授) [令和3年度退任]
- 森 定 伸 (株式会社ウエスコ)
- 矢野 興一 (岡山理科大学 准教授) [令和4年度就任]
- 山下 純 (岡山大学 資源植物科学研究所 助教)

- 公益財団法人岡山県環境保全事業団常務理事
- 岡山県自然保護センター所長
- 岡山県生活環境部自然環境課長

「◎」印は、部会長

「○」印は、運営委員会委員

(人数・所属は、令和8年3月現在)

(敬称略, 各分科会は五十音順)

事務局 ○ 公益財団法人岡山県環境保全事業団

◇協力員

[動物部会] 浅田 要 浅見 崇比呂 飯田 蒼太 伊藤 颯真 岩崎 敬二
 上地 健琉 大谷ジェームズ 亀田 勇一 木村 昭一
 木村 妙子 草加 耕司 久保 弘文 Frank Köhler 近藤 高貴
 齊藤 匠 佐々木 彰央 佐藤 大義 佐藤 正典 締次 美穂
 末永 崇之 瀬尾 友樹 高田(佐々木)歩 田中正敦
 多留 聖典 中力 健治 鶴崎 展巨 John D. Taylor 中原 ゆうじ
 芳賀 拓真 早瀬 善正 Angel Valdés 平野 尚浩 平野 弥生
 Winston F. Ponder 元 陳力昇 柳 研介 吉松 定昭
 和田 太一 渡部 哲也

[植物部会] 浅井 幹夫 池田 博 猪 雅人 岡田 智子* 片岡 法子
 柿 真理 川合 啓二 熊瀬 徳輝* 小見山 節夫 (故)古屋野 寛
 島岡 浩恵 高山 敬三 鐵 慎太郎 難波 靖司 波田 善夫
 星野 卓二* 三好 薫 雪江 祥貴 矢野 興一* [*:現在は委員]

(令和7年3月現在)

(敬称略, 五十音順)

2 調査経過

本調査においては、岡山県野生生物目録（2009）を基に、その後新たに確認された情報を反映するとともに、名称等の変更があったものについては最新のものに改めた。

平成10年度から今回の改訂に至る取り組み事項については、以下のように実施した。

調査の実施フロー

年 度	事 項
平成10年度	「岡山県野生生物調査検討会」の設置
平成14年度	「レッドリスト」の確定 『岡山県版レッドデータブック』『岡山県野生生物目録』の発刊
平成15年度 ～平成19年度	「岡山県野生動植物調査検討会」の設置 生息・生育情報の収集，データベースの更新
平成20年度	『岡山県野生生物目録2009』の発刊
平成21年度	『岡山県版レッドデータブック2009』の発刊
平成22年度 ～平成29年度	生息・生育情報の収集，データベースの更新
平成30年度	『岡山県野生生物目録2019』の発行 (ver. 1.0 としてホームページ上で掲載)
令和元年度 (平成31年度)	『岡山県版レッドデータブック2020』の原稿執筆 → 発刊 『岡山県野生生物目録2019』に県版レッドデータブック2020のカテゴリー追記等 → 発刊
令和6年度	『岡山県版レッドリスト2025』の発行 『岡山県野生生物目録2019』に県版レッドリスト2025のカテゴリー追記等 (ver. 2.0 としてホームページ上で掲載)

3 調査対象分類群

対象とする分類群は、以下の野生生物とした。

なお、岡山県域として人為的移入が明らかな種等や個体・個体群、種の保存を目的とした生息域外保全個体を除く飼育・栽培下の個体等については、原則調査対象外とした。

動物……哺乳類，鳥類，爬虫類，両生類，汽水・淡水魚類，頭索動物，尾索動物，半索動物，棘皮動物，珍無腸動物，節足動物（昆虫類，汎甲殻類（昆虫類を除く）），類線形動物，環形動物，軟体動物，毛顎動物，紐形動物，腕足動物，筍虫動物，苔虫動物，内肛動物，扁形動物，二胚動物，有櫛動物，刺胞動物，海綿動物

植物……維管束植物（シダ植物，種子植物），コケ植物

Ⅱ 岡山県野生生物目録

1 総括表

本書に掲載した種数は、下表のとおりである。（汽水・淡水魚類及び海水魚類の一部の種は、重複している。）

「岡山県野生生物目録 2019」掲載種の集計表（亜種・変種等を含む）

分 類 群		種 数	
動 物	脊椎動物門	哺乳類	53
		鳥類	399
		爬虫類	20
		両生類	22
		魚類	268
		(汽水・淡水魚類)	(136)
		(海水魚類)	(168)
	頭索動物門	1	
	尾索動物門	20	
	半索動物門	2	
	棘皮動物門	46	
	珍無腸動物門	2	
	節足動物門	昆虫類	10,590
		汎甲殻類（昆虫類を除く）	286
		ヤスデ類	20
		ムカデ類	7
		ダニ類	13
		ザトウムシ類	24
		クモ類	646
		カブトガニ類	1
	類線形動物門	2	
	環形動物門	234	
	軟体動物門	961	
	毛顎動物門	1	
	紐形動物門	16	
	腕足動物門	6	
	筭虫動物門	1	
苔虫動物門	13		
内肛動物門	1		
扁形動物門	15		

分 類 群			種 数
動 物	二胚動物門		2
	有櫛動物門		3
	刺胞動物門		65
	海綿動物門		24
	小 計		13,764
植 物	維管束植物	シダ植物	253
		種子植物	2,648
	維管束植物以外の植物（コケ植物）		570
	小 計		3,471
合 計			17,235

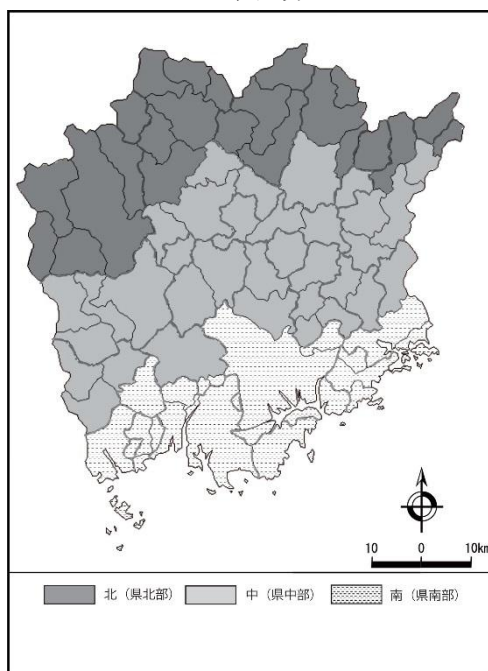
2 目録の解説項目と内容

目録は、「番号」、「分類群」、「和名」、「学名」、「生息（生育）状況」、「生息（生育）環境区分等」、「岡山県版レッドリスト2025」、「環境省レッドリスト2020」、「備考」の各項目について記載した。目録の作成にあたって準拠した文献等については、各分類群の別記のとおりである。

(1) 各項目の記載内容は以下のとおりである。

- ・番号：分類群ごとに通し番号とした。
- ・分類群：動物は原則、目名及び科名を記載するが、分類群によっては上位の分類群や下位の分類群を記載する場合もある。植物は科名を記載した。
- ・和名：各分類群で使用する体系に基づく名称を記載。
- ・学名：属名と種小名で示す二語名法を基本としたが、各分類群の慣例等必要に応じて命名者等も記した。
- ・生息（生育）状況：生物分布に影響する気象及び地象の特徴から、岡山県を3区域（北，中，南）に分け、それぞれの区域内における生息（生育）状況を記号で表した。
なお、生物相の違いから昆虫を除く動物では「海」、植物では「海岸」を別途設けた。
- ・生息（生育）環境区分等：主要な生息（生育）環境を記載した。
- ・岡山県版レッドリスト2025：岡山県版レッドリスト2025のカテゴリーを記載した。
- ・環境省レッドリスト2020：環境省レッドリスト2020及び環境省版海洋生物レッドリストのカテゴリーを記載した。
- ・備考：生息数等の増減状況、分布的特徴、移入、環境指標、関連法令の指定等、別名、各生物種の特筆すべき事項を記載。

地域区分



北 (県北部)	中国山地及びその周辺地であり、概ね市町村としては新見市、新庄村、真庭市北部（平成大合併以前の旧市町村区での川上村、八束村、中和村、湯原町、美甘村、勝山町）、鏡野町、津山市北部（旧市町村区での阿波村、加茂町、勝北町）、奈義町、西栗倉村、美作市北部（旧市町村区での東栗倉村、勝田町）が該当する。
中 (県中部)	津山盆地及び吉備高原地域であり、概ね市町村としては高梁市、井原市、真庭市南部（旧市町村区での北房町、落合町、久世町）、吉備中央町、総社市北部（旧市町村区での総社市）、津山市南部（旧市町村区での久米町、津山市）、美咲町、久米南町、岡山市北部（旧市町村区での建部町、御津町）、赤磐市、勝央町、美作市南部（旧市町村区での美作町、英田町、作東町、大原町）、和気町、備前市北部（旧市町村区での吉永町）が該当する。
南 (県南部)	瀬戸内海沿岸の平野、低山地及び諸島部であり、概ね市町村としては笠岡市、矢掛町、里庄町、浅口市、総社南部（旧市町村区での清音村、山手村）、倉敷市、早島町、岡山市南部（旧市町村区での岡山市、瀬戸町、灘崎町）、玉野市、瀬戸内市、備前市南部（旧市町村区での備前市、日生町）が該当する。
海	海域（昆虫以外の動物で設定）
海岸	砂浜や干潟等（植物で設定）

生息（生育）状況

○	普通
+	少ない
(+)	過去数十年（20～50年程度）記録が無い
×	絶滅（過去50年以上記録が途絶えている。または、生息（生育）地の県内消滅が確実）
-	記録が無い
?	情報不足（生息（生育）状況の情報が不足し、判断ができない）

(2) 岡山県版レッドデータブックカテゴリーについて

①岡山県版レッドデータブックカテゴリーの区分については、環境省レッドリストや他県との比較を考慮し、次のとおりとした。

岡山県のカテゴリー区分	環境省のカテゴリー区分 (2020)
絶滅	絶滅
野生絶滅	野生絶滅
絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠA類 絶滅危惧ⅠB類
絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
準絶滅危惧	準絶滅危惧
情報不足	情報不足
留意	
	絶滅のおそれのある地域個体群

②岡山県カテゴリーの定義

区分及び基本概念	要件
絶滅 すでに絶滅したと考えられる種	過去に岡山県に生息・生育したことが確認されており、かつ次のいずれかに該当するもの ① 信頼できる調査や記録により、すでに絶滅したことが確認されている。 ② 複数の信頼できる調査によっても、生息・生育の確認ができない。 ③ 過去50年間程度にわたり信頼できる生息・生育の情報が得られていない。
野生絶滅 飼育・栽培下でのみ存続している種	過去に岡山県に生息・生育したことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられるもの ① 信頼できる調査や記録によりすでに野生で絶滅したことが確認されている。 ② 複数の信頼できる調査によっても、生息・生育が確認できない。 ③ 過去50年程度にわたり信頼できる生息・生育の情報が得られていない。 ※本県産であることが確認されておれば、飼育・栽培の場所は県内外を問わない。
絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機に瀕している種 もしも現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用するならば、その存続が困難になるもの	① 既知のすべての個体群で、個体群が危機的水準にまで減少している。 ② 既知のすべての生息地又は生育地で、生息・生育条件が著しく悪化している。 ③ 既知のすべての個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④ ほとんどの分布域において交雑可能な別種・別亜種が侵入している。
絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種 もしも現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用するならば、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実に考えられるもの	① 大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。 ② 大部分の生息地又は生育地で生息・生育条件が明らかに悪化しつつある。 ③ 大部分の個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④ 分布域の相当部分に交雑可能な別種・別亜種が侵入している。

区分及び基本概念	要件
<p>準絶滅危惧 存続基盤が脆弱な種</p> <p>現在のところ「絶滅危惧Ⅰ類」にも「絶滅危惧Ⅱ類」にも該当しないが、生息・生育条件の変化によって容易に上位のランクに移行するような要素（脆弱性）を有するもの</p>	<p>① 環境条件の変化によって、容易に「絶滅危惧Ⅰ類」または「絶滅危惧Ⅱ類」に移行し得る属性を本来有しているもの。具体的には次のいずれかの要素を持つこと。</p> <p>a どの生息地又は生育地においても生息・生育密度が低く希少である。</p> <p>b 生息地又は生育地が局限されている。</p> <p>c 生物地理上、孤立した分布特性を有する（分布域がごく限られた固有種等）。</p> <p>d 生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている。</p> <p>② 生息・生育状況の推移からみて、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。具体的には、分布域の一部において次の傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。</p> <p>a 個体数が減少している。</p> <p>b 生息・生育条件が悪化している。</p> <p>c 過度の捕獲・採取圧による圧迫を受けている。</p> <p>d 交雑可能な別種・別亜種が侵入している。</p>
<p>情報不足 評価するだけの情報が不足している種</p>	<p>環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性（具体的には、次のいずれかの要素）を有しているが、生息・生育状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの</p> <p>a どの生息地又は生育地においても生息・生育密度が低く希少である。</p> <p>b 生息地又は生育地が局限されている。</p> <p>c 生物地理上、孤立した分布特性を有する（分布域がごく限られた固有種等）。</p> <p>d 生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている。</p>
<p>留意 絶滅のおそれはないが、岡山県として記録しておく必要があると考えられる種</p>	<p>岡山県特産種（周辺地域も含む）</p> <p>岡山県が分布の限界となる種</p> <p>タイプ産地（標準標本を採取した地域）</p> <p>隔離分布</p>

(注) 種：動物では種及び亜種、植物では種、亜種及び変種を含む。

③岡山県カテゴリー別集計表

分類群			岡山県カテゴリー						合計
			絶滅	野生絶滅	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	情報不足	
動物	脊椎動物門	哺乳類	3		12	8	1	2	26
		鳥類			20	32	24	14	90
		爬虫類				4		3	7
		両生類			4	4	6	2	16
		魚類			9	15	14	10	48
	頭索動物門					1		1	
	尾索動物門							0	
	半索動物門				1			1	
	棘皮動物門						3	3	
	珍無腸動物門							0	
	節足動物門	昆虫類	12		41	56	89	84	15
汎甲殻類(昆虫類を除く)				2	9	21	10		42

分 類 群			岡山県カテゴリー						合計	
			絶滅	野生 絶滅	絶滅危 惧Ⅰ類	絶滅危 惧Ⅱ類	準絶滅 危惧	情報 不足		留意
動 物	節足動物門	ヤスデ類								0
		ムカデ類								0
		ダニ類								0
		ザトウムシ類					6		5	11
		クモ類				3	2	2		7
		カブトガニ類			1					1
	類線形動物門									0
	環形動物門		1	5	1	1	5			13
	軟体動物門		83	200	74	75	80			512
	毛顎動物門									0
	紐形動物門									0
	腕足動物門		2				1	3		6
	嚚虫動物門									0
	苔虫動物門									0
	内肛動物門									0
	扁形動物門				1					1
	二胚動物門									0
	有櫛動物門									0
	刺胞動物門				1			3		4
	海綿動物門									0
小 計			101	0	296	207	241	221	20	1,086
植 物	維管束植物	シダ植物			26	17	24	5	1	73
		種子植物	18	2	148	140	180	12	16	516
	維管束植物以外の植物（コケ植物）		1		18	4	9	3	15	50
	小 計			19	2	192	161	213	20	32
合 計			120	2	488	368	454	241	52	1,725